

「いつかお姫様が」

— 2 稿 —

2023/6/21
月三

〈人物表〉

かざはなあさひ
風花朝陽 (23) 大手広告系勤務のサラリーマン

芹澤舞 (25) 中小企業のOL

いちのせゆうせい
一ノ瀬悠星 (29) 舞の先輩

同僚女 (28)

カフェ店員 (18)

ログライン

マッチングアプリで出会った風花と舞は、初めましてでさようならをする。

ねらい

純粋なオタク男がリアルな恋愛に戦いを挑む

1. 高層オフィスビル・18階オフィス内（夕）

帰る支度をしている風花朝陽（23）。

同僚女（28）「朝陽くん、今日早いじゃん。ちょっと

飲んでかない？」

朝陽 「すみません、用事あるんで」

急いで帰る朝陽の背を見て、

同僚女「彼女かな……できる男はぬけめないね」

2. 朝陽のマンション・リビング（夜）

部屋の中は恋愛ゲームキャラの優奈のポスターだらけ。

朝陽 「優奈姫、ただいま。待たせてごめんだよ」

笑顔で携帯を触る朝陽。

と、画面に通話アプリの通知アイコン。

朝陽 「おー正樹。はっ、あのガチオタがまさかの結

婚って。おすすめマッチングアプリなんてするか。

でも……確かにこの子、ちょっとだけ姫に似とる

けど」

スマホ画面を見つめる朝陽。

× × ×

微笑む芹澤舞（25）の写真。

写真下に「真面目に結婚相手探してます。お会いし

てきちんと話してくれる人」などのコメント。

3. 朝陽のマンション・リビング（夜）

壁のポスターを見つめる朝陽。

朝陽 「リアル姫はマジで神。お前はリアル姫を知らん

寒いやつやって……俺が優奈姫を捨てるかつつの」

笑顔で恋愛ゲームのアプリを立ち上げる朝陽。

と、画面にアプリ終了予定のお知らせ。

朝陽 「ひっ！俺の、俺の姫が……姫が……」

床に突っ伏す朝陽。

涙目で部屋のポスターを見つめる。

立ちあがろうとしてよろけ、携帯を踏んづける朝陽。

朝陽 「あぶね」

その拍子に携帯の画面が変わり、アプリの舞の顔が映る。

朝陽 「リアル姫か……とうとう俺のスキルを……リアルで試す時が来たか。やってやる、やってやるぞ」

スマホ画面を見つめる朝陽。

部屋のポスターを見つめ、

朝陽 「姫、ちょっとだけ許しておくれよ」
マッチングアプリの登録画面を押す指。

4. カフェ・内（夕）

向き合って座る朝陽と舞。

胸元が開いた服を着て微笑む舞。

舞 「じゃあ、私から！ まーです。よろしくね」

朝陽、頬を赤らめる。

朝陽 「は、初めまして！ あさひです」

朝陽は真っ赤になり下を向く。

舞、笑顔で朝陽を上から下まで見つめる。

5. イメージ

微笑む舞の下にゲームの分岐選択の時の文字。

T 「笑い返す」 「何か尋ねる」

二つの選択肢を行き来するカーソルが「何か尋ねる」で止まり点滅。

6. カフェ・内（夕）

朝陽、ぱっと顔を上げて、

朝陽 「あの！ まーさんはいつも……」

店員1 「ご注文、お決まりになりましたでしょうか？」

朝陽がはっと振り向くと、店員。

舞 「アイスカフェラテ二つで大丈夫？」

朝陽 「はい！」

風花の心の声 「まーさん、リードすげーよ。これ好感度下がった？ おし、次！」

舞 「え？」

朝陽？となる。

舞、朝陽の後方を見て、

舞 「悠先輩！ お疲れ様です」

一ノ瀬悠星（29）が目を見開いて立っている。

悠星、ちらりと風花に目をやり、

悠星 「あれ、舞ちゃんじゃん。お疲れ」

舞 「え！？ なんでもこんなところにいるんです

か？」

悠星 「ちょっと一時避難的な。ってか何？デート」

舞 「違いますよ」

朝陽、え？と目を見開く。

舞 「アプリであった友達なんです。一緒しませんか？」

ええっ！とさらに目を見開いて、舞を見る朝陽。

悠星、朝陽を見てニヤリと笑い、

悠星 「そんじゃ舞ちゃんいるし、お邪魔しちゃおっかな」

舞 「ぜひぜひ！ あさひ君いいよね？」

7. イメージ

ニヤリと笑う悠星の顔の下にゲームの分岐選択肢。

T「静かに頷く」「拒絶する」

二つの選択肢を行き来するカーソルが「静かに頷く」で止まり点滅。

8. カフェ・内（夕）

静かに頷く朝陽。

舞の隣に座る悠星、嬉しそうな舞。

悠星 「君さ、何アプリで彼女探してんの？」

朝陽 「はいっ！？ 彼女というか……」

朝陽はどぎまぎして真っ赤。

悠星 「あさひ君かわいいなあ。じゃあ、いいこと教えてやるよ」

朝陽 「はい？」

悠星、体を乗り出して手招き、朝陽も体を乗り出して、

悠星 「首筋の後ろにホクロある女はだいたいエロいよ」

朝陽 「ホクロ？」

舞 「なになに、ずるい。仲間はずれじゃん」

朝陽の頭に？

舞は悠星の左腕に腕を回す。

それを見て目を見開く朝陽。

悠星、ふと時計を見て、

悠星 「あ、俺そろそろ帰るわ」

舞 「じゃあ、私たちも帰ろ」

朝陽 「うん？ はい！？」

9.

カフェ・通路(夕)

腕を組んで歩いていく舞と悠星。

その後ろを歩いていく朝陽。

朝陽M 「え、何？ これ何だった？ 今日のは姫との親密度上げイベじゃないの」

とふと、舞の開いた服の後ろの首筋に見えるホクロ。

あれ？と思った後、はっとして愕然とする朝陽。

舞 「先輩この近くに住んでるんだったら、今から行ってもいいですか？」

一ノ瀬 「無理」

舞 「えー、なんでですか？」

一ノ瀬 「だって俺、同棲してるし」

舞 「えっ！？」

朝陽は凍りついた舞の顔を見つめる。
舞、呆然としている、が、くると

朝陽の隣に歩いてきて、朝陽の腕に手を回す。

舞 「ねー、あさひ君、これからどうする？」

朝陽は舞を見る。

舞はにこりと笑う。

10. イメージ

舞の顔の下にゲーム分岐の選択肢。

T「次のお店に誘う」「やきもちをやく」

行き来するカーソルは止まらず爆発。

11. カフェ・廊下（夜）

朝陽は笑顔。

朝陽 「俺も帰ります！」

完